

旧筑豊工業(鉱山)高校が所蔵していた明治大正の炭坑写真

青木, 琢美
旧筑豊工業(鉱山)高校 所蔵文化財を伝える会

<https://doi.org/10.15017/26286>

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 28, pp.141-166, 2013-03-22. 九州大学附属図書館
付設記録資料館産業経済資料部門
バージョン：
権利関係：

【調査報告】旧筑豊工業（鉱山）高校が所蔵していた明治大正の炭坑写真

青 木 琢 美

はじめに

筑豊鉱山学校の設立母体である筑豊石炭鉱業組合は明治時代から大正時代にかけて、同組合に所属する炭坑および関連施設等の写真（以下、「炭坑写真」と総称する）を撮影し、『筑豊石炭鉱業組合月報』に掲載するほか『筑豊炭礦誌』、『日本炭礦誌』などの書籍に提供した。

これらの炭坑写真は後に筑豊鉱山学校に教材として寄贈され、同校において活用保管された。

同校は戦後に経営母体が福岡県に変わり福岡県立筑豊鉱山高校から福岡県立筑豊工業高校となったが、鞍手竜徳高校に統合され閉校となった際に、炭坑写真も散逸することのないよう他の石炭産業に関する多数の文化財と共に一括して福岡県教育庁文化財保護課に移管され、現在では福岡県立の九州歴史資料館（小郡市）が「筑豊工業高校資料」の一部として原版写真を保有している。ただし十五枚は原版写真が存在せずコピーである。（詳細は後述）また撮影当時のガラス原版については、現

存が確認されていない。

この他に、九州大学記録資料館・産業経済資料部門（旧石炭研究資料センター）が複製写真一式を保有している。

これらの炭坑写真は現在のように誰でも簡単に写真撮影ができる状況ではなかった時代に、筑豊石炭鉱業組合が多額の費用を投じて写真師に委託し撮影した非常に大きなサイズのもので細部まで明瞭に観察が可能であり、多くの研究書・研究論文や筑豊地区の地方自治体が発行した市史・町史などの公的記録にも多数掲載されている。被写体のすべてが消滅してしまった現在においては当時の石炭産業の全体像を理解する上で他に類例のない貴重な記録写真である。

これらを登録番号順に整理し、更に地域別・種類別に分類し公式の記録として炭坑史研究の参考とすることが本稿の目的である。

記載に際し年の表記は年号で統一し、西暦の併記はしていない。また炭坑写真を掲載している書籍には筑豊石炭鉱業組合月報を含め『』を付した。

第一章 筑豊石炭鉱業組合および筑豊鉱山学校（のち筑豊工業高校）の

歴史について

一 筑豊石炭鉱業組合の歴史

筑豊石炭鉱業組合は明治十八年に炭坑経営者の自主規制のため福岡県の「石炭坑業人組合準則」に基づき筑前国の遠賀・鞍手・嘉麻・穂波の四郡と豊前国田川郡を合わせた五郡の連合体が「筑前国豊前国石炭坑業組合」として発足し、のち「筑豊石炭坑業組合」から「筑豊石炭鉱業組合」と改称した。

これは全国同業組合の中で最古の歴史と伝統を有するもので、日本の産業史に重要な位置を占めている。また筑前国豊前国を縮めて「筑豊」という呼称を使うようになったのは、このあたりからといわれ、その点でも重要である。

その後、昭和九年に社団法人筑豊石炭鉱業会、戦時中の昭和十七年に石炭統制会、戦後の昭和二十一年に日本石炭鉱業会、昭和二十三年に九州石炭鉱業会と組織名称が変遷し、のち石炭産業の衰退により解散した。明治四十三年に建設された同組合の直方会議所は組織変遷を経て最後は「九州炭鉱救護連盟直方救護練習所」の建屋となり、この炭坑写真の中にも同所の訓練用模擬坑道内部での救護隊員の訓練風景を撮影したものが数枚存在する。

二 筑豊鉱山学校（のち筑豊工業高校）の歴史

石炭産業の事業拡大に伴い炭坑技術者、特に現場技術員クラスの中堅技術者の不足が経営近代化の制約となってきた。そこで筑豊石炭鉱業組合は北の秋田鉱山専門学校と並ぶ西日本の鉱山専門学校を目指し、大正八年に私立の筑豊鉱山学校を開校させた。

その後、筑豊石炭鉱業組合の組織変遷（前述）に伴い経営母体も変わり、戦後の昭和二十三年に私立筑豊鉱山高等学校と改称、昭和二十五年に県立に移管され福岡県立筑豊鉱山高等学校となり、創設以来の採鉱科（昭和四十一年から開発工学科、昭和五十七年から開発土木科）に加えて機械科・土木科を増設して昭和三十六年に福岡県立筑豊工業高等学校と改称し、二年後に電気科を増設した。

平成十七年の筑豊地区県立高校の統廃合により、鞍手農業高等学校・鞍手商業高等学校・西鞍手高等学校と共に福岡県立鞍手竜徳高等学校に統合され閉校となった。

第二章 炭坑写真の枚数および分類について

一 写真の枚数

炭坑写真の整理番号は数字表示（1115）の後にイロハ表示（イルで11）が続く計一二六枚のはずであるが、実際には写真番号が重複するものが九枚、番号はあるが写真そのものが存在しない欠番が三枚存在するため、一二六＋（九―三）＝一二三枚となる。

更に写真を点検すると全く同一の写真が九枚存在するため、これを差引いた一二三枚が純枚数ということになる。

二 写真の分類

この一二三枚を分類すると次の通りである。それぞれの詳細は表二を参照されたい。

なお地上設備の全景を撮影した写真を見ると、当時の炭坑のシンボルであった煙突から煙が昇っているものが多く、のちにシンボルとなるボ

夕山はまだ見られない。また当時でも輸送手段として使用されていた馬が撮影されているものが数枚ある。

大分類	中分類	小分類					
1. 炭坑の設備	(1) 地上設備の全景	遠賀郡					
		鞍手郡					
		嘉穂郡					
		田川郡					
		その他					
		合計					
		計95	(2) 個別の屋外設備	72			
				(3) 屋内の機械類	8		
					(4) 坑内の採炭輸送設備	8	
						(5) 坑外の生活関連施設	3
							(1) 瀨川・堀川(運河)の川舟
		計14	(2) 海運	4			
				(3) 鉄道	8		
(1) 救護訓練施設							
計8	(2) 筑豊石炭鉱業組合	2					
		(1) 救護訓練施設					
計5		6					
計1		2					
合計123		5					

第三章 登録番号順の整理

炭坑写真の整理番号は昭和六十一年に福岡県地方史研究連絡協議会が発行した『筑豊産炭地域史資料調査1985』の中で「筑豊工業高等学校校炭鉱写真」として紹介されており、筑豊鉱山学校へ移管後に番号を付与されたものを踏襲したと推測される。

九州歴史資料館も現状ではこの番号を使用しているが、順序に規則性

(年代別・場所別・設備種類別など)は存在せず一貫性がなくて番号の重複、写真の重複も多い。

表一 整理番号順一覧表

凡例

- 一. 「たんこう」の漢字表記は、一部の固有名詞(原版写真に「明治炭礦」、「三井田川炭礦大藪坑」と記載されているものは原文のまま)を除き、「炭坑」で統一した。
- 二. 旧字体で記載されているものは、新字体に改めた。
- 三. 原版写真の炭坑名の漢数字表記は、「壹坑・弍坑・参坑」であるが、「一坑・二坑・三坑」に改めた。
- 四. 各項目の表記基準は、次の通りとした。

番号①	番号②	名称	所在地	撮影時期
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 原版写真が現在所蔵している九州歴史資料館のもの。 ・ 九州工業大学情報工学部（飯塚キャンパス）のもの。 ・ 炭坑写真の一覧表は同大学の「筑豊歴史写真ギャラリー」(http://search2lib.kyutech.ac/jp/)の検索キーワードで「福岡県立筑豊工業高等学校」を入力すると表示される。 ・ 原版写真の記載通りとし、表示のないものは前記の「筑豊工業高等学校炭鉱写真」に記載されている名称に基づき「」で表示した。（後半になるほど多い） ・ 同一写真が重複している9枚については、後の番号のほうで記載されていない場合は前の番号の記載を踏襲した。 ・ 理解を深めるため（）内で適宜補足説明を加えた。例としては、大正十三年に貝島炭礦が桐野・菅牟田・満之浦の三鉱業所を一括して大之浦炭坑（第一坑から第八坑まで）に名称変更を行っているので、（貝島大之浦第四坑）と補足している。 ・ 原版写真には記載されていない。 ・ 撮影当時の旧住所で表示した。 ・ 不明なものは（場所不明）と記載した。 ・ 原版写真には記載されていない。 ・ 月報掲載時期などの調査から判明したものと及び被写体から推測可能なものを記載したが、正確ではないため、全て末尾に「頃」と記載した。 ・ 不明なものは（時期不明）と記載した。

番号①	番号②	写真	所在地	撮影時期	撮影者
1	548	豊国坑 （明治炭礦豊国坑）	田川郡糸田	明治二十年 代後期頃	A
2	549	菅牟田炭坑 （貝島大之浦第四坑）	鞍手郡宮田 村磯光	明治二十年 代後期頃	A
3	550	糸飛炭坑	田川郡金川 村夏吉	明治二十年 代後期頃	A
4	551	豊国炭坑 （明治炭礦豊国坑）	田川郡糸田 村糸田	明治二十年 代後期頃	A
5	552	新入第三坑 （三菱新入炭坑第三坑）	鞍手郡新入 村下新入	明治二十年 代後期頃	A
6	553	高雄坑	嘉穂郡大谷 村幸袋	明治二十年 代後期頃	A
7		折尾堀川を行く川 <small>かわひらた</small> 舟	遠賀郡折尾 村折尾	明治三十年 代初期頃	

撮影者
<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんど若松の写真師が撮影しているが、一部の写真については撮影者が不明のため空欄とした。 A：筑前若松港写真師山本鶴影堂 B：写真師山本千代吉謹写筑前若松港 C：筑前若松山本鶴影堂 D：CYAMAMOTO WAKAMATU CHIKUZEN E：東京新橋江木写真店 F：黒台紙・撮影者記載なし G：白台紙・撮影者記載なし H：筑前若松港山本 I：筑前若松港浜田

16	15	14	13 の23	13	12	11	10	9	8
564	563	562	561	560	559	558	557	556	555
三菱鯨田炭坑第二坑	「一島棧橋積込風景」 *80と同じ写真	切羽の採炭作業	相田炭坑 *写真番号重複	「坑内救護訓練」(練習坑道内)	「炭坑診療所」	鴻巣御徳炭坑第二坑 (石炭を運搬する川舟) *30と同じ写真	忠隈炭坑第二坑(住友忠隈炭坑第二坑)	「匍匐練習」(練習坑道内)	スラ函を使って石炭を切羽から片盤坑道に(住友忠隈炭坑第三坑)
村鯨田	嘉穂郡笠松町戸畑	(場所不明)	嘉穂郡二瀬村相田	鞍手郡直方町直方	(場所不明)	鞍手郡勝野村御徳	嘉穂郡穂波村忠隈	町直方	嘉穂郡穂波村忠隈
年頃	明治四十年代頃	(時期不明)	明治四十年頃	大正十五年頃	(時期不明)	明治三十九年頃	明治四十年頃	大正十五年頃	明治四十四年頃
G	C	F	B	D	C	B	B	D	

28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17
576	575	574	573	572	571	570	569	568	567	566	565
「大任炭坑第一坑」	第二岩崎炭坑	大之浦炭山桐野一坑 (貝島大之浦第一坑)	大之浦炭坑桐野坑(貝島大之浦第一坑)	豊国炭坑 (明治炭礦豊国坑)	明治炭礦第一坑	三菱新入炭坑第四坑	木屋瀬炭坑	三井田川炭礦大藪坑	三菱方城炭坑	赤池炭坑 (赤池炭坑第一坑)	勝野炭坑
村川崎	田川郡川崎村楠橋	遠賀郡香月村宮田	鞍手郡宮田村宮田	村糸田	田川郡糸田村勢田	嘉穂郡頼田町植木	鞍手郡植木瀬町木屋瀬	田川郡弓削田村大藪	田川郡方城村伊方	田川郡上野村赤池	鞍手郡勝野村勝野
代頃	明治四十年頃	明治四十二年頃	明治四十年頃	明治四十一年頃	明治四十年頃	明治四十一年頃	明治三十九年頃	明治四十年代頃	明治四十年頃	明治三十年頃	明治三十九年頃
B	B	E	F	B	B		B	F		B	B

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
587	586	585	584	583	582	581	580	579	578		577
大之浦炭山桐野二坑(貝島大之浦第二坑)	明治炭礦第一坑	三菱新入炭坑・第一坑北立坑	三菱鯉田炭坑第一坑	忠隈炭坑第一坑(住友忠隈炭坑第一坑)	滿之浦炭坑(貝島大之浦第七坑)	岩崎炭坑(第三坑)	本洞炭坑第一坑	第三金谷炭坑第二坑(二本煙突)*トと同じ写真	「筑豊」石炭鉸業組合直方会議所	石炭を運搬する川舟(鴻巣御徳炭坑第二坑)*1と同じ写真	「大任炭坑第二坑」
村宮田	村勢田	村下新入	村鯉田	村忠隈	村滿之浦	村岩崎	村下境	村伊左座	町直方	村御徳	村川崎
年頃	頃	頃	頃	年頃	年頃	代頃	年頃	代頃	大正元年頃	年頃	代頃
E	B	F	B	B	F	B	B	B	H	B	B

の520	50	49	48	47	46	45	の424	44	43	42	41
599	598	597	596	595	594	593	592	591	590	589	588
複 潮頭炭坑*写真番号重	若松新地下避難場全景	「若松港 汽船」	三菱新入炭坑第五坑	明治炭礦第二坑選炭所	白岩炭坑(貝島大辻白岩坑)	大之浦炭坑菅牟田坑(貝島大之浦第五坑)	香月村 ^{じめ} 唐戸通舟景*写真番号重複	「蒸気機関車三一一五号」	三菱新入炭坑第二坑・事務所納屋風景*3と同じ写真	大之浦炭坑菅牟田坑(貝島大之浦第三坑)*1と4と同じ写真	大之浦炭坑・桐野二坑(貝島大之浦第二坑)
村新多	町若松	町若松	町直方	村勢田	村香月	村磯光	村香月	(場所不明)	村下新入	村磯光	村宮田
頃	代頃	代頃	代頃	頃	頃	代後期頃	代初期頃	(時期不明)	年頃	代後期頃	代後期頃
B		F	G	B	F	F	I	C	G		

61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	52	51
611	610	609	608	607	606	605	604	603	602	601	600
高江炭坑	三井田川炭坑本坑	「明治炭礦第二坑」	「簡易竪坑捲」	「小学校授業風景」	「発動機」	藤棚炭坑第二坑	「二島港積込場」	「三井田川炭坑伊田坑竪坑捲やぐら」	長津村中間唐戸通舟景 *写真番号重複	「三菱上山田炭坑第二坑」	「三菱上山田炭坑第一坑」
遠賀郡香月村馬場山	田川郡弓削田村奈良	嘉穂郡頼田村勢田	(場所不明)	(場所不明)	(場所不明)	鞍手郡下境村藤棚	遠賀郡戸畑町戸畑	田川郡伊田村伊田	遠賀郡長津村中間	嘉穂郡熊田村上山田	嘉穂郡熊田村上山田
明治四十年代頃	明治四十年頃	明治四十年代頃	(時期不明)	(時期不明)	(時期不明)	明治四十年頃	明治四十年代頃	明治四十年代頃	明治三十年代初期頃	明治四十年頃	明治三十五年頃
B		B	F	C	C	B	I	C	I	G	G

73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62
623	622	621	620	619	618	617	616	615	614	613	612
下山田炭坑	「選炭場」	三菱新入炭坑第二坑	「炭住街」	「救助訓練」(屋外)	穂波炭坑(のち三菱飯塚炭坑)	日尾炭坑 <small>しゅうのお</small> *口と同じ写真	「扇風機室」	大之浦炭坑・桐野坑(貝島大之浦第二坑)	峰地炭坑	*二と同じ写真	宮ノ浦炭坑
嘉穂郡熊田村下山田	(場所不明)	鞍手郡直方町山部	(場所不明)	(場所不明)	嘉穂郡穂波村平恒	嘉穂郡大谷村目尾	(場所不明)	鞍手郡宮田村宮田	田川郡弓削田村川宮	田川郡神田村金田	嘉穂郡庄内村仁保
明治四十年頃	(時期不明)	明治四十年代頃	(時期不明)	(時期不明)	明治四十一年頃	明治三十年代後期頃	(時期不明)	明治三十年代後期頃	明治四十一年頃	明治四十年頃	明治四十一年頃
B	C	G	C		B	B	C	F	B	B	B

の 8 2 2	8 2	の 8 2 1	8 1	の 8 2 0	8 0	7 9	7 8	7 7	7 6	7 5	7 4
6 3 5	6 3 4	6 3 3	6 3 2	6 3 1	6 3 0	6 2 9	6 2 8	6 2 7	6 2 6		6 2 4
「公会堂」 *写真番号重複	「三菱方城炭坑 堅坑捲やぐら」	私立明治専門 学校寄宿舎*写真 番号重複	「若松港遠景」	私立明治専門 学校本館*写真 番号重複	「二島棧橋積込 風景」*15と同じ 写真	明治炭礦第一坑 選炭所*99の2と 同じ写真	鴻巣御徳炭坑 第一坑	本洞炭坑第二 坑	「石炭積出しの 若松港」	*欠番	「ポンプ室」
(場所不明)	田川郡方城 村伊方	遠賀郡戸畑 町中原	遠賀郡若松 町若松	遠賀郡戸畑 町中原	遠賀郡戸畑 町戸畑	嘉穂郡穎田 村勢田	鞍手郡勝野 村御徳	鞍手郡下境 村下境	遠賀郡若松 町若松		(場所不明)
(時期不明)	明治四十年 代頃	明治四十 一年頃	明治四十 年頃	明治四十 一年頃	明治四十 年頃	明治四十 一年頃	明治四十 年頃	明治四十 年頃	明治四十 年頃		(時期不明)
H			F		C	B	B	B	F		C

9 4	9 3	9 2	9 1	9 0	8 9	8 8	8 7	8 6	8 5	8 4	8 3
	6 4 6	6 4 5	6 4 4	6 4 3	6 4 2	6 4 1	6 4 0	6 3 9	6 3 8	6 3 7	6 3 6
欠番	「大辻炭坑」	「坑口風景」	「発電所内部」	「安全灯保管室」 (明治炭礦豊国坑)	「捲揚場」	「坑外運炭電車」	「豆田炭坑」 *99と同じ写真	「三井田川炭坑 本坑」	「香月 大辻炭坑」	「通風用張出作 業」(練習坑道内)	三菱新入炭坑 第二坑・事務所 納屋風景*43と 同じ写真
	遠賀郡香月 村香月	(場所不明)	(場所不明)	田川郡糸田 村糸田	(場所不明)	(場所不明)	嘉穂郡桂川 村豆田	田川郡伊田 村宮ヶ迫	遠賀郡香月 村香月	鞍手郡直方 町直方	鞍手郡新入 村下新入
	明治四十 年頃	(時期不明)	(時期不明)	大正初期 頃	(時期不明)	(時期不明)	明治三十 年代後期 頃	明治三十 年代後期 頃	明治四十 二年頃	大正十五 年頃	明治三十 九年頃
		F	C	C	C	F	B			F	G

105	104	103	102	101	100	99 の2	99	98	97	96	95
657	656	655	654	653	652			650	649	648	647
「若松港 帆船群」	「選炭積込棧橋」	「坑内送風機」	三井田川炭礦大藪坑坑 夫納屋	「購買所」	エンドレスロープによる坑 道運搬（三菱鯨田炭坑）	明治炭礦第一坑選炭所*写真番 号重複*79と同じ写真	「豆田炭坑」 *87と同じ写真	「芳雄炭坑」	「筑豊」石炭鉱業組合直 方会議所」	「藤棚炭坑第一坑」	「豊州炭坑」
遠賀郡若松 町若松	(場所不明)	(場所不明)	田川郡伊田 村大藪	(場所不明)	嘉穂郡笠松 村鯨田	嘉穂郡穎田 村勢田	嘉穂郡桂川 村豆田	嘉穂郡笠松 村上三緒	鞍手郡直方 町直方	鞍手郡下境 村藤棚	田川郡猪位 金村猪国
明治四十年 代頃	(時期不明)	(時期不明)	明治四十年 代頃	(時期不明)	明治四十年 代頃	明治四十一年 頃	明治三十年 代後期頃	明治四十年 頃	明治四十四 年頃	明治四十年 頃	明治四十年 代頃
C	F	C	G	C	F	B	B	B	C	B	B

イ	115 の2	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106
668	667	666	665	664	663	662	661	660	659	658	
赤池炭坑	「坑外選炭風景」 *写真番号重複	「若松港 帆船群」	大之浦炭坑菅牟田坑(貝島大之 浦第三坑)*42と同じ写真	「大之浦炭坑桐野坑」(角煙突と事務所 の見える風景)(貝島大之浦第二坑)	「ガス検出訓練」(練習 坑道内)	「応急材料手繰運搬」 (練習坑道内)	「三菱鯨田炭坑第三坑」 (一本松)	大之浦炭山菅牟田坑 (貝島大之浦五坑)	三井田川炭坑伊田坑	赤池炭坑 (赤池炭坑第一坑)	欠番
田川郡上野 村赤池	(場所不明)	遠賀郡若松 町若松	鞍手郡宮田 村磯光	鞍手郡宮田 村宮田	鞍手郡直方 町直方	鞍手郡直方 町直方	嘉穂郡笠松 村鯨田	鞍手郡宮田 村磯光	田川郡伊田 村宮ヶ追	田川郡上野 村赤池	
明治四十年 頃	(時期不明)	明治四十年 代頃	明治三十年 代後期頃	明治四十年 頃	大正十五年 頃	大正十五年 頃	明治四十年 頃	明治四十二 年頃	明治三十五 年頃	明治三十年 代前期頃	
B	F	F				D	B	E	G		

ル	ヌ	リ	チ	ト	ヘ	ホ	ニ	ハ	口
677	676	675	674	673	672	671		669	
「筑豊鉱山学校建築工事」	「筑豊鉱山学校建築工事」	「好間炭坑」	「野田卯太郎」(政治家)	第三金谷炭坑第二坑(一本煙突) *32と同じ写真	「大辻炭坑香月坑」	「選炭場」	金田炭坑 *63と同じ写真	「汽罐場」	目尾炭坑 *67と同じ写真
村頓野	鞍手郡頓野	福島郡石城	自宅	遠賀郡水巻村伊左座	遠賀郡香月村香月	(場所不明)	田川郡神田村金田	(場所不明)	嘉穂郡大谷村目尾
大正七年	大正七年	明治四十年頃	大正十年頃	明治四十年代頃	明治四十年代頃	(時期不明)	明治四十年頃	(時期不明)	明治三十年代後期頃
				B	F	G	G	F	B

第四章 炭坑写真の分類表示について

一 分類の基準

表一は前章で述べた通り掲載順序がバラバラで番号や写真の重複もあり、雑然としている。これでは研究する上で不便なため、表二では最初に炭坑の地上設備全景の写真を撮影当時の郡名別に分類し、さらに炭坑の付帯設備、石炭の輸送手段、炭坑関連その他の施設などに分類して掲載した。

また場所不明・時期不明の写真で、その後の調査により判明したものは、その旨記載した。

二 原版写真の存在が不明なもの

炭坑写真の原版写真は前述の経緯を経て現在は九州歴史資料館が所蔵しているが、原版写真が存在しないものが十五枚ある(コピーは存在)ので、一括して末尾に掲載した。

前項の分類に従って整理すると次の通りである。

大分類	中分類	小分類
1. 炭坑の設備	(1) 地上設備の全景	遠賀郡 93 大辻炭坑 鞍手郡 41 大之浦炭坑 田川郡 18 赤池炭坑 19 三菱方城炭坑 60 三井田川炭坑本坑 86 三井田川炭坑本坑 7 その他 82 好間炭坑(福島県)
計 8	(2) 個別の屋外設備	1

2. 石炭の輸送手段	計 3	(1) 遠賀川堀川の川舟	2	7	折尾堀川を行く川 <small>かわりた</small>
		(2) 海運	1	50	長津村中間唐戸通舟景 若松新地下避難場全景
3. 炭坑に関する諸施設	計 1	(1) 救護訓練施設	1	69	救助訓練(屋外)
4. その他施設			3	80の2	私立明治専門学校・本館
				81の2	私立明治専門学校・寄宿舎
				82の2	公会堂
合計15					

写真紛失の時期は不明で、紛失の理由としては各種出版物等に掲載するため貸出して返却されなかったことなどが想定されるものの、学校の校外貸出管理書類も一部(平成十一年の貸出記録は存在するが、返却が確認されている)を除き現存せず不明である。

旧筑豊工業(鉱山)高校所蔵文化財を伝える会としては今後とも所在不明の原版写真を九州歴史資料館が所蔵できるよう努力を続ける所存である。

表二 地域(郡)別一覧表

凡例

郡名	写真撮影当時の筑豊地区の郡名に基づいて分類した。
整理番号	九州歴史資料館の整理番号順に掲載し、写真が重複しているものは若い番号に一括して掲載した。内容が重複する場合は両方に記載している。(全景写真で所在不明など)
名称	表一の名称を使用した。
所在地	検索の便を考慮し、現時点の市(北九州市は区まで)町名で表示した。今回の調査により確認できたものは、所在地を記載(または変更)している。

一 炭坑の設備

(一) 地上設備の全景

郡名	整理番号	名称	所在地
遠賀郡	27	第二岩崎炭坑	北九州市八幡西区
	32とト	第三金谷炭坑第二坑	遠賀郡水巻町
	34	岩崎炭坑	北九州市八幡西区
	46	白岩炭坑	北九州市八幡西区
	61	高江炭坑	北九州市八幡西区
	85	「香月 大辻炭坑」	北九州市八幡西区
	93	「大辻炭坑」	北九州市八幡西区
	へ	「大辻炭坑香月坑」	北九州市八幡西区
鞍手郡	2	菅牟田炭坑	宮若市
	5	新入第三坑	直方市
	17	勝野炭坑	鞍手郡小竹町
	21	木屋瀬炭坑	北九州市八幡西区
	22	三菱新入炭坑第四坑	直方市
	25	大之浦炭坑桐野坑	宮若市
	26	大之浦炭山桐野一坑	宮若市
	33	本洞炭坑第一坑	直方市
	35	満之浦炭坑	宮若市
	38	三菱新入炭坑・第一坑北立坑	直方市
	40	大之浦炭山桐野二坑	宮若市
	41	大之浦炭坑・桐野二坑	宮若市
	42と114	大之浦炭坑菅牟田炭坑	宮若市
	43と83	三菱新入炭坑第一坑・事務所納屋風景	直方市
	45	大之浦炭坑菅牟田坑	宮若市
	48	三菱新入炭坑第五坑	直方市
	50の2	潮頭炭坑	鞍手郡小竹町
	55	藤棚炭坑第二坑	直方市
	65	大之浦炭坑・桐野坑	宮若市

不明	89	「捲揚場」	場所不明
田川郡	90	「安全灯保管室」(明治炭礦豊国坑)	田川郡糸田町
不明	91	「発電所内部」(貝島・桐野か)	場所不明
不明	103	「坑内送風機」	場所不明
不明	ハ	「汽罐場」	場所不明
(四) 坑内の採炭輸送設備			
郡名	整理番号	名称	所在地
嘉穂郡	8	スラ函を使って石炭を切羽から片盤坑道に(住友忠隈炭坑第三坑)	飯塚市
不明	14	切羽の採炭作業	場所不明
嘉穂郡	100	エンドレスロープによる坑道運搬(三菱鯉田炭坑)	飯塚市
(五) 坑外の生活関連施設			
郡名	整理番号	名称	所在地
不明	12	「炭坑診療所」	場所不明
不明	57	「小学校授業風景」(貝島・大之浦か)	場所不明
不明	70	「炭住街」	場所不明
不明	101	「購買所」(貝島・大辻炭坑か)	場所不明
二 石炭の輸送手段			
(一) 遠賀川・堀川(運河)の川舟			
郡名	整理番号	名称	所在地
遠賀郡	7*	折尾堀川を行く川舟 <small>かわひらた</small>	北九州市八幡西区
鞍手郡	11と30	鴻巣御徳炭坑第二坑(石炭を運搬する川舟)	鞍手郡小竹町
遠賀郡	44の2	香月村壽 <small>じゆめ</small> 命唐戸通舟景	北九州市八幡西区
遠賀郡	52の2	長津村中間唐戸通舟景	中間市

* 今回の調査により同一アングルで撮影された写真三枚の存在が確認された。川舟の隻数、船頭の人数に相違があるが、同時期に撮影された

ものと推測される。整理のため、筑豊工業高校が所蔵していた写真を7、他の二枚を7の2、7の3とすると、その名称および書籍等への掲載状況は次の通りである。

- 7 (折尾堀川を行く川舟かわひらた) ↓ 『筑豊石炭鉱業会五十年史』、『樟陵七十年・筑豊工業高校七十年のあゆみ』、『山田市誌』、『幸袋町誌』、『方城町史』、『添田町史・上巻』、『筑豊炭田開発技術史論文選集(長弘雄次)』

- 7の2 (折尾村切抜通舟景) ↓ 『中間市史・下巻』、『絵葉書7の3 (タイトル不明) ↓ 『田川市史・中巻』、『写真万葉集・筑豊⑩黒十字』

(二) 海運			
郡名	整理番号	名称	所在地
遠賀郡	15と80①	「二島棧橋積込風景」	北九州市戸畑区
遠賀郡	49	「若松港 汽船」	北九州市若松区
遠賀郡	50	「若松新地下避難場全景」	北九州市若松区
遠賀郡	54②	「二島港積込場」	北九州市戸畑区
遠賀郡	76	「石炭積出しの若松港」	北九州市若松区
遠賀郡	81	「若松港遠景」	北九州市若松区
遠賀郡	105	「若松港 帆船群」	北九州市若松区
遠賀郡	115	「若松港 帆船群」	北九州市若松区

原版写真では①は「二島棧橋」、②は「二島港」と記載されているが「戸畑棧橋」、「戸畑港」が正しい。

(三) 鉄道

不明	88②	「坑外運炭電車」(三菱・ 鯉田)	飯塚市
不明	44①	「蒸気機関車三一五号」 (三菱・新入)	直方市
不明		名称	所在地
郡名	整理番号	名称	所在地

① 『1号機関車からC63まで・精密イラストで綴る日本の蒸気機関車史』(片野正巳著・平成二十年ネコ・パブリッシング)の記述によると、筑豊鉄道と合併した九州鉄道が鉄道国有化の前年の明治三十九年に米国のアルコ社から二十四台のタンク機を購入しており(二二八〜二五二)、国有化後に三一〇〇形となった。44番の写真は正面のナンバプレート、煙突等の形態から見て、鉄道院の三一五号である。

② 「鞍高七十年(昭和六十二年福岡県立鞍手高等学校)には「三菱新入炭坑引込線」と記述した写真が掲載されている。背後に写っている山の稜線から、現在の飯塚市にあった三菱鯉田炭坑のものと判明した。

三 炭坑に関する諸施設

(一) 救護訓練施設

不明	69	「救助訓練」(屋外)	場所不明
鞍手郡	13	「坑内救護訓練」(練習坑道内)	直方市
鞍手郡	9	「匍匐練習」(練習坑道内)	直方市
郡名	整理番号	名称	所在地

鞍手郡	84	「通風用張出作業」(練習坑道内)	直方市
鞍手郡	111	「応急材料手繰運搬」(練習坑道内)	直方市
鞍手郡	112	「ガス検出訓練」(練習坑道内)	直方市
郡名	整理番号	名称	所在地
(二) 筑豊石炭鉱業組合			
鞍手郡	31	「筑豊石炭鉱業組合直方会議所」	直方市
鞍手郡	97	「筑豊石炭鉱業組合直方会議所」	直方市
郡名	整理番号	名称	所在地
四 その他施設			
遠賀郡	80の2	私立明治専門学校・本館	北九州市戸畑区
遠賀郡	81の2	私立明治専門学校・寄宿舎	北九州市戸畑区
不明	82の2*	「公会堂」(若松市)	北九州市若松区
鞍手郡	又	「筑豊鉱山学校・建築工事」	直方市
鞍手郡	ル	「筑豊鉱山学校・建築工事」	直方市

* 建築物の外観から若松市(大正三年市制施行)公会堂と判明した。

この公会堂は若松石炭商同業組合および筑豊石炭鉱業組合の寄付により大正九年に完成した。同じく財界人の寄付によって完成した大阪市中央公会堂(旧中之島公会堂)の二年後である。なお同年に旧若松駅舎も完成している。

のち敷地には昭和三十七年に若松文化体育館、平成二年に若松区役所が建てられ現在に至っている。

五 炭坑に関連する人物

郡名	整理番号	名称	所在地
—	チ	「野田卯太郎」(政治家)	自宅
六 原写真の所在が不明なもの			
郡名	整理番号	名称	所在地
遠賀郡	7	折尾堀川を行く川 <small>かわ</small> 鱈 <small>たら</small>	北九州市八幡西区
田川郡	18	赤池炭坑	田川郡福智町
田川郡	19	三菱方城炭坑	田川郡福智町
鞍手郡	41	大之浦炭坑・桐野二坑	宮若市
遠賀郡	50	若松新地下避難場全景	北九州市若松区
遠賀郡	52の2	長津村中間唐戸通舟景	中間市
田川郡	60	三井田川炭坑本坑	田川市
不明	69	「救助訓練」(屋外)	場所不明
遠賀郡	80の2	私立明治専門学校・本館	北九州市戸畑区
遠賀郡	81の2	私立明治専門学校・寄宿舎	北九州市戸畑区
田川郡	82	「三菱方城炭坑竪坑捲やぐら」	田川郡福智町
不明	82の2	「公会堂」	場所不明
田川郡	86	「三井田川炭坑本坑」	田川市
遠賀郡	93	「大辻炭坑」	北九州市八幡西区
その他	リ	「好間炭坑」	福島県いわき市
七 欠番			
	75	写真の記録なし	
	94	写真の記録なし	
	106	写真の記録なし	

これらの番号については、「筑豊産炭地域史資料調査・筑豊工業高等学校写真」の調査段階で既に欠番となっており、理由は不明である。

第五章 炭坑写真の掲載状況(一部)

「はじめに」で述べた通り、これらの炭坑写真は筑豊石炭鉱業組合の月報の他、多数の書籍に掲載されている。以下、その一部について紹介する。

一、「筑豊石炭鉱業組合月報」

整理番号	区分	名称	郡名	掲載
42と114	地上設備の全景	大之浦炭坑菅牟田坑	鞍手郡	明治四十年四月・第三卷三四号
113	地上設備の全景	大之浦炭坑桐野坑	鞍手郡	明治四十年四月・第三卷三四号
23	地上設備の全景	明治炭礦第一坑	嘉穂郡	明治四十年七月・第三卷三七号
13の2	地上設備の全景	相田炭坑	嘉穂郡	明治四十年十月・第三卷四〇号
63と二	地上設備の全景	金田炭坑	田川郡	明治四十一年一月・第四卷四三号
リ	地上設備の全景	好間炭坑	福島県	明治四十一年十一月・第四卷五三号
80の2	その他施設	私立明治専門学校本館	遠賀郡	明治四十二年四月・第五卷五八号
81の2	その他施設	私立明治専門学校寄宿舎	遠賀郡	明治四十二年四月・第五卷五八号

二、『筑豊石炭鉱業会五十年史』（昭和十年発行）

整理番号	区分	名称	郡名	掲載
108	地上設備の全景	三井田川炭坑 伊田坑	田川郡	P34
40	地上設備の全景	大之浦炭山桐 野二坑	鞍手郡	P34
7	遠賀川堀川の川舟	折尾堀川を行 く <small>かわもた</small> 川 <small>わた</small> 網	遠賀郡	P36
52の2	遠賀川堀川の川舟	長津村中間唐 戸通舟景	遠賀郡	P36
8	坑内の採炭輸送設備	スラ函を使っ て石炭を切羽 から片盤坑道 に（住友忠隈 炭坑第三坑）	嘉穂郡	P92
ホ	個別の屋外設備	「選炭場」	不明	P98
整理番号	区分	名称	郡名	掲載
三の二、『筑豊石炭礦誌』（高野江基太郎著・明治三十一年発行）				
18	地上設備の全景	赤池炭坑	田川郡	P580
4	地上設備の全景	豊国炭坑	田川郡	P434
6	地上設備の全景	高雄坑	嘉穂郡	P434
2	地上設備の全景	菅牟田炭坑	鞍手郡	P292
5	地上設備の全景	新入第三坑	鞍手郡	P292
整理番号	区分	名称	郡名	掲載
三の二、『日本炭礦誌』（高野江基太郎著・明治四十一年初版発行）				
25	地上設備の全景	大之浦炭坑桐 野坑	鞍手郡	P264
41	地上設備の全景	大之浦炭坑・ 桐野二坑	鞍手郡	P265
35	地上設備の全景	満之浦炭坑	鞍手郡	P266
110	地上設備の全景	「三菱鯉田炭坑 第三坑」	嘉穂郡	P280
51	地上設備の全景	「三菱上山田炭 坑第一坑」	嘉穂郡	P290

98	地上設備の全景	「芳雄炭坑」	嘉穂郡	P329
13の2	地上設備の全景	相田炭坑	嘉穂郡	P352

整理番号	区分	名称	郡名	掲載
三の三、『日本炭礦誌』（高野江基太郎著・明治四十四年改訂再版発行）				
76	海運	「石炭積出しの 若松港」	遠賀郡	P52
105	海運	「若松港 帆船 群」	遠賀郡	P52
113	地上設備の全景	「大之浦炭坑桐 野坑」	鞍手郡	P157
42と114	地上設備の全景	大之浦炭坑菅 牟田坑	鞍手郡	P158
23	地上設備の全景	明治炭礦第一 坑	嘉穂郡	P186
13の2	地上設備の全景	相田炭坑	嘉穂郡	P294

四、県史・市史・町史

写真の名称については、記載されている通りとした。

四の二、『福岡県史』

①『近代史料編 筑豊石炭鉱業組合（一）』（昭和六十二年・西日本文化協会編）

整理番号	区分	名称（記載通り）	郡名	掲載
97	炭坑に関する諸施設	筑豊石炭鉱業組 合直方会議所	鞍手郡	口絵の最後

②『通史編近代 産業経済（二）』（平成十二年・西日本文化協会編）

整理番号	区分	名称（記載通り）	郡名	掲載
115	海運	若松港	遠賀郡	P63
82	個別の屋外設備	三菱方城炭坑	田川郡	P493

③『県史だより 75号』（平成六年・福岡県地域史研究所編）				
整理番号	区分	名称（記載通り）	郡名	掲載
44の2	遠賀川堀川の川舟	寿命の唐戸	遠賀郡	表紙
四の二：『直方市史・石炭鉱業編』（昭和五十四年発行）				
整理番号	区分	名称（記載通り）	郡名	掲載
71	地上設備の全景	三菱新入炭坑 第二坑	鞍手郡	口絵
22	地上設備の全景	三菱新入炭坑 第四坑	鞍手郡	口絵
48	地上設備の全景	三菱新入炭坑 第五坑	鞍手郡	口絵
11と30	遠賀川堀川の川舟	鴻巣御徳炭坑 付近の川鱒	鞍手郡	口絵
38	地上設備の全景	三菱新入一坑 開坑当初の豎坑	鞍手郡	P152
5	地上設備の全景	三菱新入第三坑	鞍手郡	P154
14	坑内の採炭輸送設備	手掘り採炭の切羽	不明	P273
52の2	遠賀川堀川の川舟	中間唐戸	遠賀郡	P324
44の2	遠賀川堀川の川舟	壽命唐戸	遠賀郡	P325
四の三：『宮田町誌・下巻』（平成二年発行）				
整理番号	区分	名称（記載通り）	郡名	掲載
8	坑内の採炭輸送設備	スラ函を使つて石炭を切羽から片盤坑道に	嘉穂郡	P471
2	地上設備の全景	菅牟田旧本坑	鞍手郡	P557
42と114	地上設備の全景	本田斜坑	鞍手郡	P564
45	地上設備の全景	菅牟田旧本坑	鞍手郡	P567
81	海運	若松港	遠賀郡	P583
25	地上設備の全景	桐野一坑	鞍手郡	P976
26	地上設備の全景	桐野一坑	鞍手郡	P976

65	地上設備の全景	桐野二坑	鞍手郡	P977
40	地上設備の全景	桐野二坑	鞍手郡	P977
42と114	地上設備の全景	菅牟田一坑	鞍手郡	P981
109	地上設備の全景	菅牟田一坑と五坑	鞍手郡	P981
35	地上設備の全景	満之浦一坑	鞍手郡	P982
へ	地上設備の全景	香月坑	遠賀郡	P997
46	地上設備の全景	白岩坑	遠賀郡	P997
85	地上設備の全景	岩之元坑	遠賀郡	P998
101	坑外の生活関連施設	売勘場風景	不明	P1083
14	坑内の採炭輸送設備	筋堀	不明	P1248

四の四、その他の市史・町史

筑豊石炭鉱業組合が撮影した炭坑写真の掲載が確認されたものは次の通りであるが、『直方市史』、『宮田町誌』に比較すると数が少ないため、枚数のみ記載し個別の紹介は省略した。

旧遠賀郡	『北九州市史 近代・現代／産業経済』（平成四年発行）1枚
旧鞍手郡	『中間市史・中巻』（平成四年発行）1枚 『中間市史・下巻』（平成十三年発行）1枚 『小竹町史』（昭和六十年発行）2枚
旧嘉穂郡	『山田市誌』（昭和六十一年発行）3枚 『幸袋町誌』（昭和三十八年発行）1枚
旧田川郡	『田川市史・中巻』（昭和五十一年発行）5枚 『赤池町史』（昭和五十二年発行）1枚 『方城町史』（昭和四十四年発行）2枚 『添田町史・上巻』（平成四年発行）5枚

五. 学校史

写真の名称については、記載されている通りとした。

整理番号	区分	名称(記載通り)	郡名	掲載
5の1・『楠陵七十年・筑豊工業高校七十年のあゆみ』(昭和六十三年発行)				
14	坑内の採炭輸送設備	人力時代の採炭(本校所蔵)	不明	P5
7	遠賀川堀川の川舟	堀川を行く川舟(本校所蔵)	遠賀郡	P5
41	地上設備の全景	貝島氏経営大之浦炭坑(本校所蔵)	鞍手郡	P9
18	地上設備の全景	安川氏経営赤池炭坑(本校所蔵)	田川郡	P9
87と99	地上設備の全景	麻生氏経営豆田炭坑(本校所蔵)	嘉穂郡	P10
11と30	遠賀川堀川の川舟	海軍炭坑御徳坑(本校所蔵)	鞍手郡	P12
60	地上設備の全景	三井田川炭坑(本校所蔵)	田川郡	P13
19	地上設備の全景	竪坑開削中の三菱方城炭坑(本校所蔵)	田川郡	P13
76	海運	石炭積出しの若松港(本校所蔵)	遠賀郡	P13
44の2	遠賀川堀川の川舟	香月村 ^じ 壽命 ^め 唐戸 ^め を行く川舟(本校所蔵)	遠賀郡	P14
93	地上設備の全景	大辻炭坑納屋群(本校所蔵)	遠賀郡	P15
43と83	地上設備の全景	三菱新入第一坑(本校所蔵)	鞍手郡	P21

53	個別の屋外設備	三井田川伊田堅坑(本校所蔵)	田川郡	P29
ル	その他施設	建築中の本校(本校所蔵)	鞍手郡	P43
ヌ	その他施設	建築工事中の本館(本校所蔵)	鞍手郡	P62
52の2	遠賀川堀川の川舟	長津村中間唐戸通舟景(本校所蔵)	遠賀郡	P75

五の二. その他

創立の古い学校については掲載している学校史もあると思われるが、確認できたものは『鞍高七十年』(昭和六十二年福岡県立鞍手高等学校発行、五枚掲載)だけである。

六. 研究論文

『筑豊炭田開発技術史論文選集』(長弘雄次著・平成二十四年発行) 写真説明には「九州歴史資料館所蔵・筑豊工業高校資料」と記載されている。

写真の名称については、記載されている通りとした。

整理番号	区分	名称(記載通り)	郡名	掲載
14	坑内の採炭輸送設備	切羽における採炭作業(明治時代の人力採炭)	不明	P52
11と30	遠賀川堀川の川舟	小竹町 ^め 鴻巣海軍御徳炭坑 ^め 第二坑と川舟	鞍手郡	P59
7	遠賀川堀川の川舟	折尾堀川を行く川舟	遠賀郡	P59

原版写真には撮影時期が一切記載されていないため、掲載時期や写真背景などを考慮して撮影時期を記載した。また場所についても不明の写真が多い（特に屋外設備及び屋内の機械類）ため、撮影時期及び撮影場所に関する情報をお持ちの方は「旧筑豊工業（鉱山）高校所蔵文化財を伝える会」（連絡先 福岡県立筑豊高等学校記念資料室）までお知らせ下さい。

炭坑写真の説明文

写真① 炭坑設備から NO85 香月 大辻炭坑

（遠賀郡香月村香月・明治四十二年頃）

写真② 炭坑設備から NO38 三菱新入炭坑・第一坑北立坑

（鞍手郡新入村下新入・明治四十年頃）

写真③ 炭坑設備から NO113 大之浦炭坑桐野坑

（鞍手郡宮田村宮田・明治四十年頃）

写真④ 炭坑設備から NO39 明治炭礦第一坑

（嘉穂郡頼田村勢田・明治四十年頃）

写真⑤ 炭坑設備から NO68 穂波炭坑（後の三菱飯塚炭坑）

（嘉穂郡穂波村平恒・明治四十一年頃）

写真⑥ 炭坑設備から NO4 豊国炭坑

（田川郡糸田村糸田・明治二十年代後期頃）

写真⑦ 炭坑設備から NO20 三井田川炭礦大藪坑

（田川郡弓削田村大藪・明治四十年代頃）

写真⑧ 炭坑設備から NO28 大任炭坑第一坑

写真⑨ 坑内採炭輸送から NO8・「スラ函を使って石炭を切羽から片盤坑道に」
（住友忠隈炭坑第三坑）
（田川郡川崎村川崎・明治四十年代頃）

（嘉穂郡穂波村忠隈・明治四十四年頃）

写真⑩ 坑内採炭輸送から NO100・「エンドレスロープによる坑道運搬」
（三菱鯉田炭坑）

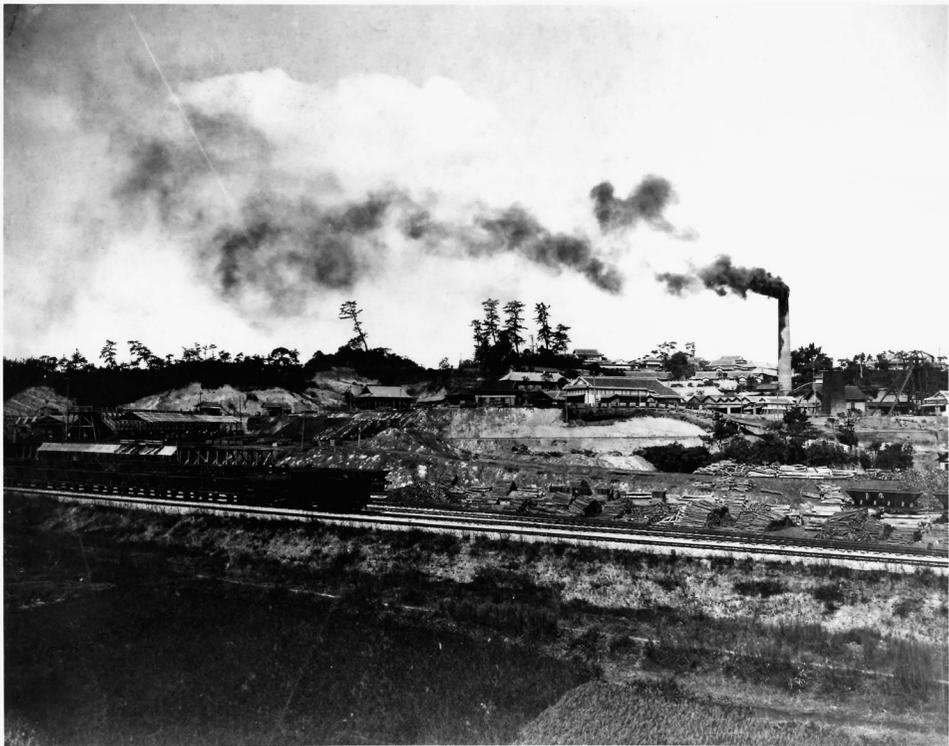
（嘉穂郡笠松村鯉田・明治四十年代頃）

写真⑪ 石炭輸送川舟から NO11と30 「石炭を運搬する川舟」
（鴻巣御徳炭坑第二坑）

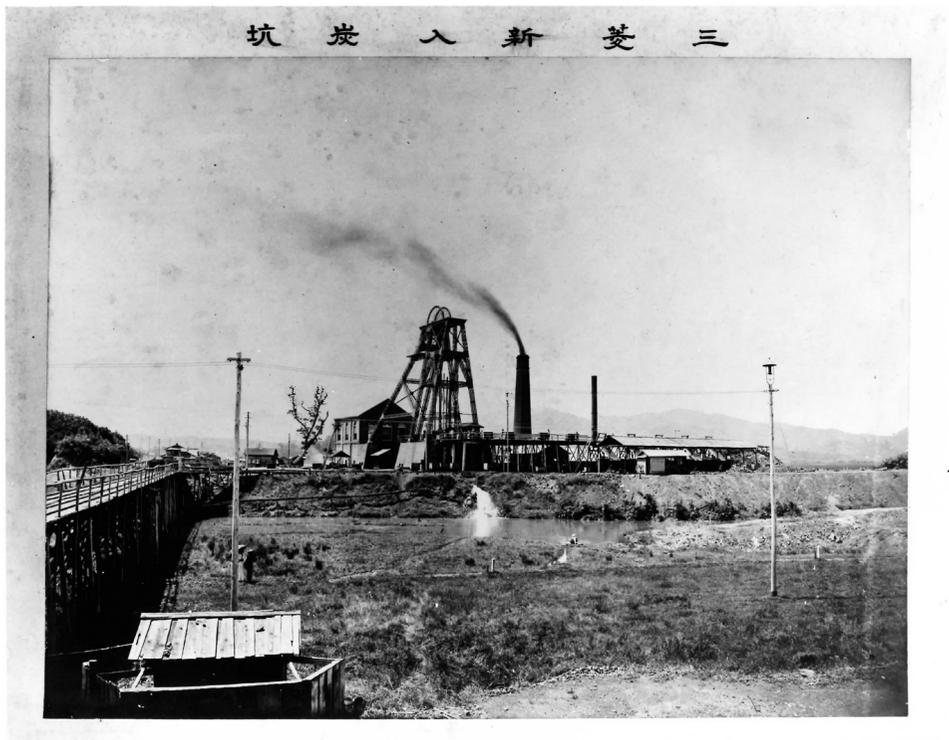
（鞍手郡勝野村御徳・明治三十九年頃）

写真⑫ 石炭輸送海運から NO81 若松港遠景
（遠賀郡若松町若松・明治四十年代頃）

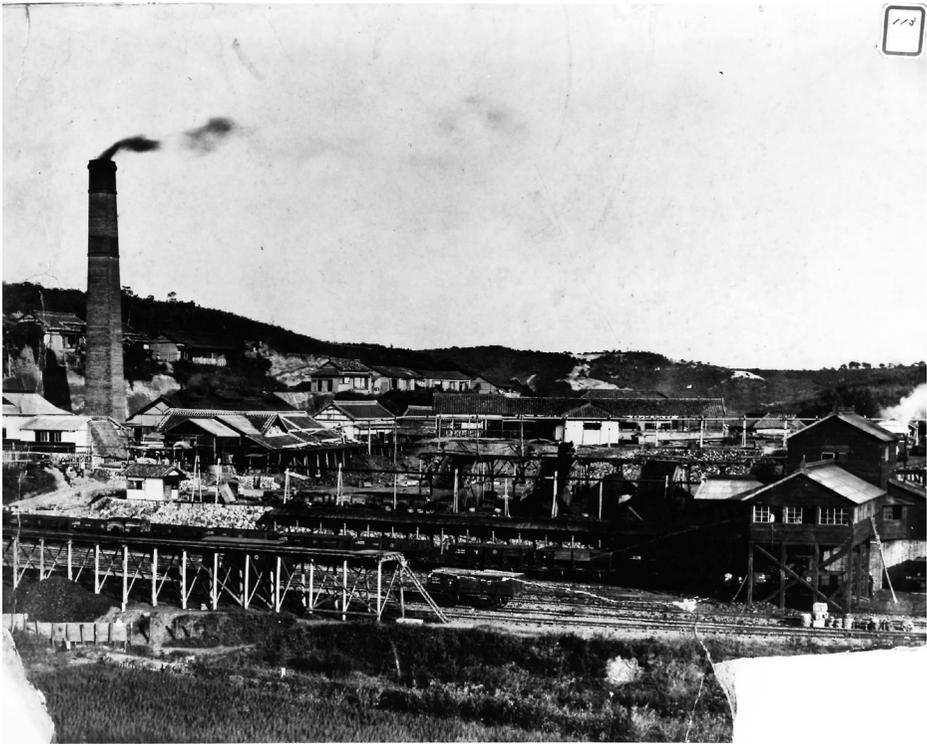
（遠賀郡若松町若松・明治四十年代頃）



写真①. No 85. 香月大辻炭坑 遠賀郡香月村香月 明治42年頃



写真②. No 38. 三菱新入炭坑第一坑北立坑 鞍手郡新入村下新入 明治40年頃



写真③. No 113. 大之浦炭坑桐野坑 鞍手郡宮田町宮田 明治40年頃



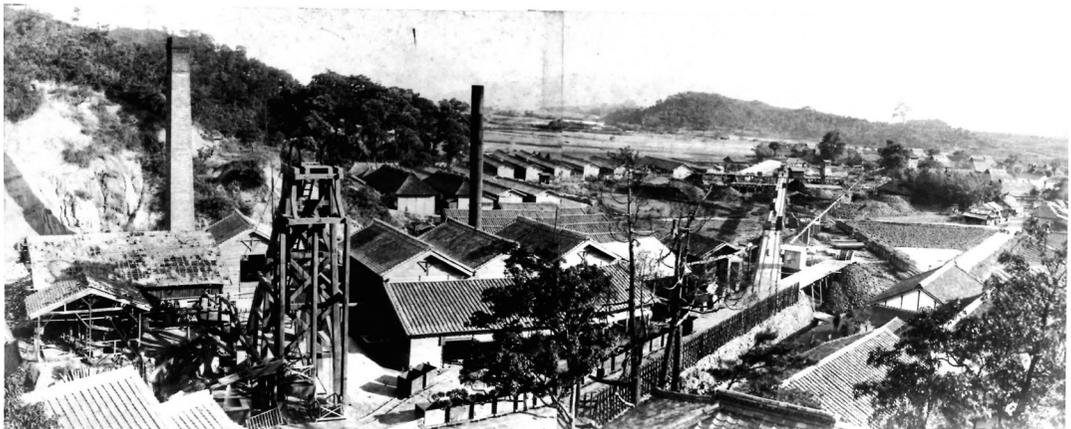
写真④. No 39. 明治炭坑第一坑 嘉穂郡頼田村勢田 明治40年頃

坑 炭 波 穂



写真⑤. No 68. 穂波炭坑 嘉穂郡穂波村平恒 明治41年頃

坑 炭 國 豊



写真⑥. No 4. 豊國炭坑 田川郡糸田村糸田 明治20年代後期頃

三井田川炭礦大藪坑



写真⑦. No 20. 三井田川炭礦大藪坑 田川郡弓削田村大藪 明治40年代頃



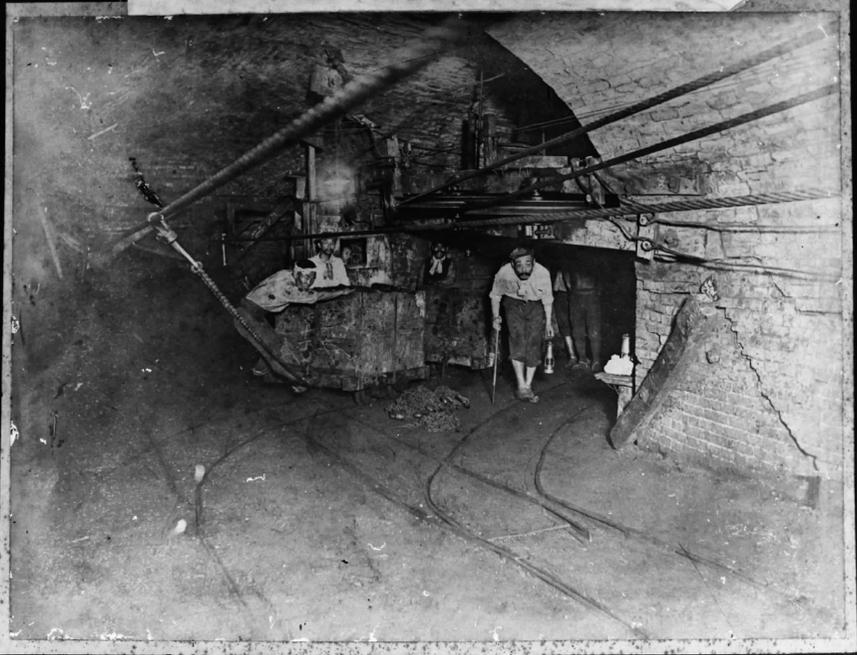
写真⑧. No 28. 大任炭坑第一坑 田川郡川崎村川崎 明治40年代頃

スラ函を使って石炭を切羽から片盤坑道に

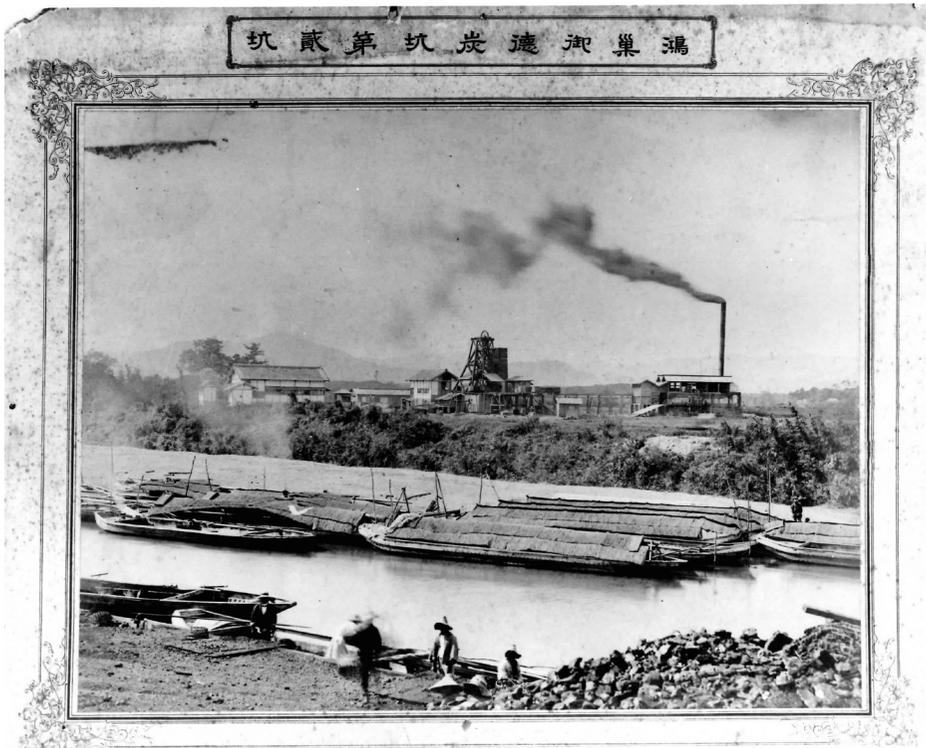


写真⑨. No 8.スラ函を使って石炭を切羽から片盤坑道に（住友忠隈炭坑第三坑）嘉穂郡穂波村忠隈 明治44年頃

エンドスロープによる坑道運搬



写真⑩. No 100.エンドスロープによる坑道運搬（三菱鯉田炭坑）嘉穂郡笠松村鯉田 明治40年代頃



鴻巢御徳炭坑第二坑

写真⑪. No 11. 鴻巢御徳炭坑第二坑（石炭を運搬する川舟）鞍手郡勝野村御徳 明治39年頃



写真⑫. No 81. 若松港遠景 遠賀郡若松町若松 明治40年代頃